

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104245		
法人名	有限会社 厚生ライフ長崎		
事業所名	グループホーム鳴見ヶ丘		
所在地	長崎市鳴見町368		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様の自尊心を大切に支援を行う。・温かで家庭的な安らぎのある環境作りに徹する。・自然の中で、地域の方との交流を持てるように支援する。・(看取り)ターミナルケアに取り組む。・個別ケアの実施。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年10月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは閑静な住宅団地を見渡せる小高い所に位置している。法人理念を職員は理解し日々の支援を行う中で、グループホームの理念を作成するに至り、「温かな雰囲気の中ゆったりと暮らせるようにします。安心・安全に過ごせる環境づくりを目指します。自然の中で地域の方との交流の機会を持てるように努めます。」を作り上げた。法人、職員は閉じこもらない支援のために積極的に周囲の意見を運営に取り入れている。職員は介護者としての意識の高さから積極的に内外研修を受講し、互いにフォローアップしている。ケアプラン作成時には主治医からの意見書を取り入れ、ホームでの生活支援と共に健康管理も取り入れる体制が整っている。看取り支援も数例有り、主治医、職員の支援体制が整っている。職員は利用者の心に寄り添い、思いに耳を傾け本音を話せる雰囲気づくりを大切に、利用者の笑顔絶えないホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念や、グループホームの理念も作っているため、スタッフ・入居者様が見える所に掲示して実践につなげている。	法人理念を基礎に、昨年誰もがわかりやすいグループホームの理念を全職員で考え作成した。理念は掲示し毎朝唱和している。職員は利用者により思い出が残せるように、外出や人との交流が実現できるような環境づくりを実践している。また自尊心を傷つけない声かけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会等の行事、特に清掃には入居者様と一緒に参加したり、ホームの行事に参加を呼びかけている。	職員は草取りや近隣の清掃活動を行っており、地域の情報は自治会長から得ている。併設するデイサービスとの合同秋祭りには地域の方にも声を掛け交流を図っている。プログラムの中に地域のボランティアが参加する等地域の祭りとして定着しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着推進会議に自治会の方を招いて説明に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の方や入居者様家族を招いて、ホームの状況、活動などの報告や話し合いをしている。	2ヶ月に1度、規定のメンバーが参加し行われている。利用情報・活動状況・職員参加研修の内容、外部評価結果報告など行っている。参加者より近隣での猪等による危険情報を得たり、避難場所の確認を行ったり、ホームや利用者へのサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者の方も、地域密着推進会議に参加していただいているので、ホームの実情や担当者の方のアドバイスなどの意見交換をしている。	市すこやか支援課や福祉課職員と相談や情報交換をしており、市主催の研修会へ参加している。包括支援センターからは入居状況の問い合わせや地域高齢者の情報交換など日頃から連携を取っている。また、市介護相談員の受け入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。施錠は夜間だけしている。	毎月1回全職員での勉強会を開催し、虐待の防止や身体拘束をしないケアの実践につなげている。声掛けで声の大きさや言葉使いについて職員全員で気をつけて対応するように取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会でも何度も行っている。外部の研修にも参加して学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会で学び、現在活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族・利用者様から要望や意見を聞き、また説明も行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時および介護計画説明時に家族へ問うようにしている。	利用者の意見は日々のケアで、家族の意見は訪問時に直接聞くよう時間を取っている。頻繁に来訪するのが困難な県外の家族は電話で近況報告時に意見や要望を聞くようにしており、入浴の回数や買い物支援に対する希望を受けて対応に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングでいろんな意見や提案が出た場合、代表に聞いていただく機会を作っている。	毎月1回のスタッフミーティング時に業務内容・行事予定等の話し合いを行い、外出の支援方法への提案等意見が出され実践している。代表者が来訪した際に意見・提案等を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や状況を聞き、できる限り要望に答えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に行く機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修会や勉強会には積極的に参加し、その結果報告を施設内の勉強会で発表し、質の向上に向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の話を聞き、要望など取り入れ介護計画書にも反映させて、信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や各担当職員が、面会時に聞く機会を作り、要望に沿うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の要望をふまえ、職員間で話し合い、支援サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がしたい事に対してはサポートし、職員と共に信頼し合える関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の信頼関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が訪ねてこられたり、希望者には電話や、また手紙などを送れるように支援している。	友人・知人の来訪や墓参り・法事に同行、同窓会への参加の支援も行われている。また、家族との外食や一時帰宅もある。遠方の友人等には電話や手紙のやりとりが出来るよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様同士が過ごしやすい関係作りの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	私物など残っている場合は連絡を取っている。常々お会いした折は、どうぞおいでくださいと声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、または家族様に話を聞きながら希望、意向に沿っている。	利用者の要望は日頃から話をゆっくり聞くよう心がけており、個人記録・申し送り・連絡帳に記載し職員全員で内容を確認、把握し共有するように努めている。利用者一人ひとりが自分のペースで充実した生活が送れるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様やケアマネージャーにより、入居前に情報提供をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に毎日記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心とし、必要な関係者と話し合い、意見交換しながら介護計画を作成し、モニタリングを行っている。	見直しは短期3ヶ月・長期6ヶ月に1回行われている。家族へ介護計画の評価を送付している。家族の意見は訪問時や電話などで要望や意見を取り入れている。状況確認は申し送り時に日々のこまかな状況報告を行い、個人記録には計画に対する評価を各担当が記入を行っている。但し支援経過記録と介護計画との連動が課題である。	個人記録や日々介護計画の支援状況がわかる各種書類の作成があるが、現在作成している支援経過記録と介護計画の実施状況がわかるような記録の工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入や、職員間のミーティングで情報交換や、ノートに記載して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の意向に沿って、できる限りのサービスに取り組むよう努めている。		

グループホーム鳴見ヶ丘(ユニット1, 2共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や、地域の清掃にも参加し、近隣の人との交流を計っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様に異常が見られるときは、かかりつけ医に連絡し、指示を仰ぐようにしている。	かかりつけ医の受診は職員が同行し介助を行っている。受診結果は家族への報告を行う事で相互理解の体制を取っている。協力医療機関とは24時間体制での連携が取られ、2週間に1回の訪問診療を定期的に受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携を図り、日頃の様子や状態を相談したり、指示を仰いだりして健康管理や医療活動の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、Dr、医療関係者との情報交換をまめに行い、相談にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、家族の方との面談を行い、意志の疎通、確認をして書面に残している。	重度化及び見取りの指針は利用者の契約時に説明を行っている。その後は利用者の状況に応じた医師、家族、職員との話し合いを行い、改めて説明後同意も得ている。看取りの実績もあり、職員への教育も外部研修の受講や事業所内での教育も行われており支援体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティングの時などに訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と避難場所などの確認を行ったり、備蓄品も保管している。	災害時は地域の避難場所になっている。また万が一の地区の避難場所、避難経路も確認している。災害時対応のマニュアルも整備され、水・食料・オムツ等の備蓄品も保管されている。年4回消防訓練を実施し、うち1回は夜間想定、消防署の立会も1回ある。但し地域を含めた訓練は実施されていない。	ホームの立地から、非常時は地域との連携は必要であると考えられる。ホームの避難訓練の見学や参加によって、状況を地域住民に把握してもらうことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛けをしている。	職員の守秘義務は雇用時に説明し、誓約書を取っている。個人情報事務所に保管管理されており、写真掲載に関しての同意は家族の承諾を得ている。トイレ誘導の声掛けや同性介助の検討、日中ドアを開けている場合のカーテン設置など人格の尊重に配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望に添った環境作りの支援などを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用している。毎日の生活の中でも整髪、爪切り、髭剃り等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に準備や片付けなどを行っている。	給食委員会を設置し利用者の嗜好調査を基に献立表を作成している。準備や片付けは利用者によって対応が出来る範囲で一緒に行っている。職員も一緒に食事しており、月に1回程度弁当を作り外出したり、行事や誕生日など食事を楽しむ場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はこまめに行っている。希望があればその都度提供している。個人記録に記入してスタッフが把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様によってはガーゼ等を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム鳴見ヶ丘(ユニット1.2共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを把握して誘導している。	利用者毎の排泄パターンは日課計画表に記載され把握できている。日中はトイレ誘導により自立に向けた支援を実践している。そのことで改善事例もあり担当者が事業所内研修等で利用者毎に合わせた対応策を検討し支援に活かしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳を提供している。利用者様の状態に応じて、主治医に下剤の調節を相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂の準備をしている。時間も利用者様の希望に沿うようにしている。	毎日入浴準備されている。利用者によっては夕方に入浴しており、希望に沿った支援に努めている。最低でも週3回は入浴するように対応しており入浴拒否の場合は、時間帯を変える等の工夫で支援を行っている。着替えを利用者と選んだり、入浴中の職員との会話など入浴が楽しい時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理をして安眠できる環境の提供。眠れない人には温かい飲み物を提供したり、スタッフが話を聞く等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際にはダブルチェックを行い、誤薬がないようにしている。利用者様の様子に変化が見られた時には、主治医に連絡し指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の能力に合ったことを無理強いせずに行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場へ散歩に出かけたり、月に2回ドライブの計画をたて、家族同伴で行っている。	天候や体調にあわせ日常的に近所への散歩や買い物、気分転換のドライブに出掛けている。月1回から2回はドライブ等の計画を立てたり、家族同伴による企画を立て実行している。車椅子の方も専用の車両により対応し外出支援に努めている。	

グループホーム鳴見ヶ丘(ユニット1. 2共通)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。必要なときには使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持されている方もあり見守り支援をしている。また電話を希望される方には、お繋ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室に利用者様の写真を貼ったり、掲示物などを工夫し、季節がわかるようにしている。	ユニット毎に飾り物や行事の際の思い出の写真を掲示したり、季節に合った飾りを折り紙等で作成している。掃除は毎日朝食後に職員が行っている。また週に1回はワックスがけ・窓ふき・フィルター掃除を行い清潔な環境を維持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人の居場所がほとんど決まっている為、その場で安心して過ごされるように、私物などを利用して工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様にとって使い慣れた物を家族に持ってきてもらうようにしている。	居室には利用者使い慣れたテレビや家具類、写真や飾り物や植物など自由に持ち込まれている。利用者が自立した活動が出来るようベッドなど利用者にあわせて配置している。掃除は職員が行っている。各居室に郵便受けが設置されており、自立心に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にネームプレートを掲示している。掲示物も大きくわかりやすいようにしている。		